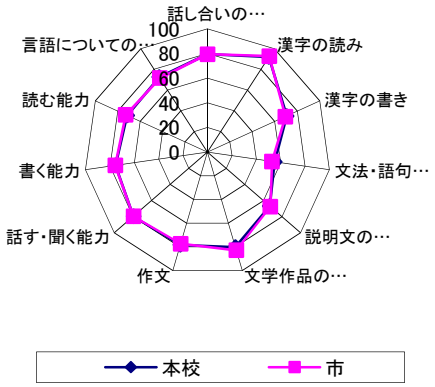
宇都宮市立陽東中学校 第１学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	79.5	79.5
	漢字の読み	92.0	92.6
	漢字の書き	70.6	69.5
	文法・語句に関する知識	55.1	52.9
	説明文の内容の読み取り	66.9	67.4
	文学作品の内容の読み取り	80.3	82.9
	作文	78.4	77.4
観点別	話す・聞く能力	79.5	79.5
	書く能力	75.5	75.6
	読む能力	71.7	73.1
	言語についての知識・理解・技能	72.4	71.5



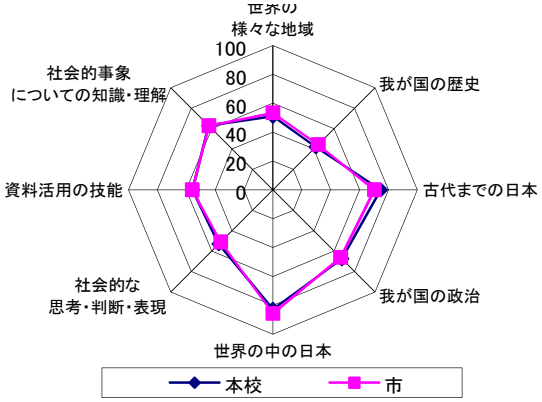
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	この領域の正答率は市の平均と同じ79.5%という数値だった。しかし、(4)の記述を伴う問題では、市の平均61.9%に対し、本校の結果は57.7と、4.2ポイント低い数値となっている。ここから、内容を聞き取る力は身に付いているが、その情報を自分の言葉でまとめる力が足りないことが分かる。	現在も授業で聞き取りのテストなどを行っている。しかし、その内容は聞き取った内容を選択して答える形式が多い。内容を正確に聞き取るといった点では、この方法も大切なので、今後も継続して行いたい。これに付け加え、本年度の状況に表れた、「聞き取った内容から自分の考えをまとめる」ことに重点をおき、聞き取りの問題でも、内容を簡潔にまとめる作業を取り入れていきたい。
漢字	漢字の読みに関しては、市の平均から0.6ポイント下回っている。また、漢字の書きに関しては、市の平均よりも1.1ポイント上回った。しかしながら、読み書きはほとんど市の平均と変わりがない。ここから、漢字に関しての定着度は、市の平均並であるといえる。	授業ではまず始めに漢字の小テストを行うなど、漢字の基礎知識定着のために指導の工夫をしている。また、平成24年度の漢字検定受験者が昨年度と比べて増加していることからも、漢字に対する意識の高まりが感じられる。しかし、漢字が得意な生徒については良いが、苦手・嫌いな生徒の意識を高められるような指導の工夫をしていかなければならない。
文法・語句に関する知識	この領域の正答率は市の平均よりも2.2ポイント上回っている。各設問における回答率も、すべて市の平均を上回る結果となった。しかし、生徒たちの様子を見ていると、特に「文法」に対する苦手意識が強い。	今回の調査では、文法の領域で「文節」や「単語」についての出題だった。現在はまだ多くの生徒が理解しているが、今後内容が深くなっていくにつれて、文法に対する理解が浅くなることが懸念される。基本を丁寧に押さえるとともに、ワークやプリントなど、繰り返し問題を解くことで学力を定着させていきたい。
説明文の内容の読み取り	この領域の正答率は市の平均から0.5ポイント下回っている。今回の調査では、「文章の展開に即して内容をとらえる」問題が弱かった。そのうち、(4)は記述式の問題で、やはりここでも、読み取ったことを自分で考えてまとめる作業が苦手であることがうかがえる。	説明的文章の展開は、文章の構成を理解することが必要である。そのためには、「しかし」「つまり」などの接続語のはたらきをきちんと理解させるなど、文章構成を読み解く方法を指導することが大切である。 また、考えてまとめる作業が苦手なので、普段の授業から、自分の考えを書いてまとめる作業を多く取り入れていきたい。
文学作品の内容の読み取り	この領域の正答率は市の平均から2.6ポイント下回っている。今回の調査では、「登場人物の心情をとらえる」問題や、「文脈のなかでの語句の効果的な使い方」を問う問題が弱かった。文章中の語句の意味が分からないなど、語彙力が弱いことも原因のひとつと考えられる。	文章の読解において、語句の知識・語彙力はとても重要である。特に文学作品においては、心情をとらえたり、場面の展開を読み取ったりすることが必要不可欠で、そのためにはどんな意味の言葉なのかをよく知ることが大切である。また「読む能力」では、市の平均73.1%に対し、71.7%と1.4ポイント下回っており、文章読解能力が少々低いことが分かる。この克服のために、まずはきちんと語句を調べて覚えていくところから指導したい。
作文	この領域の正答率は市の平均から1.0ポイント上回っている。「方言について自分が考えたこと」について、根拠を示しながら自分の考えを書くことができるかを問う問題での正答率が80.1%であった。ここから、具体的な事柄が提示され、それに対して自分の考えを書く力はついていると考えられる。	日ごろの授業のなかでは、作品についての感想や意見を書かせるなどの「書くこと」に関する指導は行われている。しかし、こういった調査の形式のように、段落や字数の指定など、条件にそった形で書くことは少ないように感じる。今後も継続して文章を書く機会を設けるとともに、更に条件をつけるなどの工夫をしながら、指導をしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第１学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	50.9	53.2
	我が国の歴史	42.0	44.3
	古代までの日本	74.6	70.2
	我が国の政治	67.5	66.3
	世界の中の日本	82.6	85.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	52.9	51.0
	資料活用の技能	55.6	55.8
	社会的事象についての知識・理解	63.0	62.7



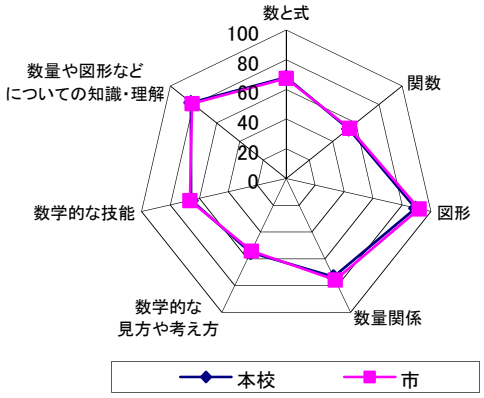
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の 様々な地域	市全体の平均と比べ2．3ポイント下回っている。地球の姿をとらえる問題や世界各地の人々の生活と環境の問題において、特に資料や写真からの読み取りや活用しながら考える能力が5～10ポイント近く不足している。しかし、記述的な説明能力の必要な問題や短答問題は市の平均より2．8ポイント上回っており、緯度・経度などを理解し地球儀から読み取る能力なども市の平均を上回っている。	社会科の学習内容は、小学校の既習事項を基礎にしてさらに発展的な内容を学習することになるので、多角的多面的な切り口から学習内容を進めていくような授業を展開していくことが重要である。また、資料活用や読み取り問題の観点でポイントが下回っていることから、授業において時間を十分に取りながら資料活用や読み取りの経験を増やすようにして、苦手意識が出ないような工夫をしていきたい。
歴史	我が国の歴史	市全体の平均と比べ2．3ポイント下回っている。昭和時代の前半の問題だったため、中学校ではまだ既習していない内容で、小学校の内容からの出題であったこともあり正答率は市の平均より下回った。やはりここでも思考を必要とする短答的な問題に関しては、市の平均を0．9ポイントではあるが上回っている。	小学校での既習内容からの出題であるが、この領域は6年生の歴史分野では比較的新しく現代に近いため、生徒の興味関心も薄い内容でもである。中学校でも3学年の前半に学習する内容で小学校の既習事項を忘れている状況が起こりうる可能性が大きい。生徒が小学校での既習内容を思い出しつつ、新しく学んでいくような資料や学習形態を工夫できるようにしたい。
	古代までの日本	市全体の平均を4．4ポイント上回っている。古墳時代や7世紀から11世紀の政治の出題に関しては、5世紀頃の朝鮮半島の問題を除く全ての問題において、市の平均を上回っている。ここでも記述的な解答において、8．2ポイントと市の平均よりかなり高い水準で正答率である。	中学1年生での学習内容である。この領域は1学年の初め頃に学習する内容なので、特に生徒たちの興味や関心、理解においてかなり高い水準で内容を定着させる事ができた領域である。またそれに加えて、記憶にも新しいということもあり、繰り返し復習する機会も授業の中で数多く設けることができた。今後も振り返り問題などを活用しながら知識理解の定着を図るようにしたい。
公民	我が国の政治	市全体の平均を1．2ポイント上回っている。日本国憲法に関する問題で、三大原則の理解やその原則と身近な事例とを考察する問題においては1～2ポイントほどではあるが市の平均を上回っている。また、短答的な問題に関して、やはり市の平均を2．2ポイントではあるが上回っている。日本国憲法おける天皇の地位についての理解がやや市の平均を下回った。	小学校での既習内容からの出題であるが、この領域は6年生の歴史分野では最終章の部分で現代に最も近いため、生徒の身近な問題であるものの、政治経済的な分野の内容でもであるため興味関心は薄い。中学校でも3学年の歴史的分野終了後に学習する内容で、小学校の既習事項を忘れている状況が起こるのが現状。生徒が現代のテレビのニュースや新聞、インターネットなどのメディアを通じて、興味を持って新しく学んでいくような資料や学習形態を工夫できるようにしたい。
	世界の中の日本	市全体の平均を3．0ポイント下回っている。世界の中の日本の出題では、国際化に関するグラフの読み取りや国際交流に関する資料の読み取り及びその目的を考える問題で、共に市の平均を下回った。ただし、正答率は70％や90％以上をとっているので、全国の平均から比べればかなり上回っている。	この領域は新しく学習する言葉やシステム、世界との様々な繋がりなど覚えるべき知識が多い。それに加えて、国際的な視野にたったグローバルな学習展開がされるため、興味関心がなくなると苦手意識をもってしまう生徒もかなり出てくる。そこで、パソコンなどを導入した学習やディスカッション・ディベートといった様々な学習形態を工夫し表現、知識の定着を図りながらも自己の考え方や自己主張ができる授業の展開を心掛け興味関心の継続が必要がある。

宇都宮市立陽東中学校 第１学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	68.2	67.6
	関数	53.6	54.4
	図形	89.3	91.7
	数量関係	73.3	75.8
観点別	数学的な見方や考え方	55.0	54.2
	数学的な技能	65.7	66.6
	数量や図形などについての知識・理解	82.1	81.1



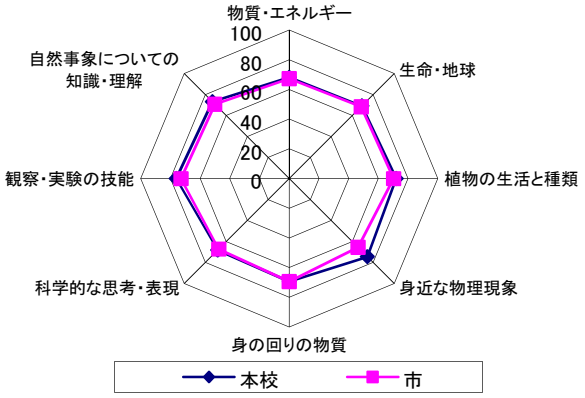
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	宇都宮市と比べると0．6ポイント高い。内容を分析してみると、「文字と式の項」は17．5ポイント、「1次方程式の文章題」は12．2ポイント高い。しかし、「比例式」においては、10．4ポイント低いことがわかる。記述式問題は無回答が4．9ポイント上回っている。学習意欲の不足が考えられる	今年度の学習内容はもちろんのこと、次年度の文字式の計算や数量を表す文字式の繰り返しの学習を意図的に設定し、基礎基本の定着を図るようにしたい。特に、つまずきがちな学習内容を事前に想定し、指導を強化できるようにしたい。また、生徒各自が意欲的に授業に取り組めるような学習課題の工夫を心がけたい。記述問題に対しては自分の考えをきちんと書けるよう、答えを導く過程について理解を深め、説明力をつけていきたい。
関数	宇都宮市と比べると0．8ポイント低い。内容を分析してみると「比例の式を求める」は3．1ポイント高く、「グラフから座標を求める」は4．7ポイント低いことがわかる。関数に対して苦手意識のある生徒が多いと分析できる。	関数においては、苦手意識のある生徒が多く本領域における達成度は個人差が大きいと思われる。パソコンなどの視覚的教材の活用を通し、その理解と関心を高めていきたい。
図形	宇都宮市と比べると2．4ポイント低い。内容を分析してみると、「拡大図の辺の長さについて求める」は1．3ポイント「拡大図を選択する」は3．5ポイント低いことがわかる。	対応している辺、対応している角など基本的な知識理解を深めるために、繰り返しの学習をしていきたい。視覚的に理解を深めるために対応しているものどうし色分けをするなど、板書にも工夫をしていきたい。
数量関係	宇都宮市と比べると2．5ポイント低い。内容を分析してみると、「組み合わせ」が3．3ポイント、「並べ方」が1．8ポイント低いことがわかる。	実際に、組み合わせや並べ方を考え、それが何通りあるかを確実に数えられるよう、練習問題などを繰り返し行うように指導していきたい。また、様々な場面の問題に取り組ませることを通して問題への理解を深めさせていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第１学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	68.2	67.3
	生命・地球	69.1	68.4
	植物の生活と種類	71.9	70.2
	身近な物理現象	74.4	65.4
	身の回りの物質	69.2	69.3
観点別	科学的な思考・表現	68.1	67.1
	観察・実験の技能	76.1	72.8
	自然事象についての知識・理解	73.2	70.8



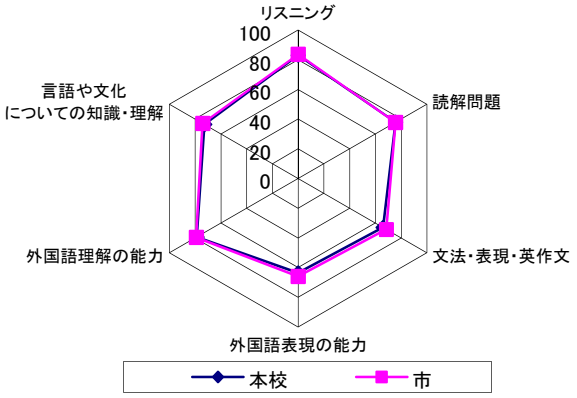
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市全体の平均と比べ0．9ポイント上回っている。てこのはたらきについての問題では、平均とほぼ同じ正答率である。 また、電気の利用についての問題も平均を上回っているが、特に記述問題では2．5ポイント上回っていることから、実験の結果を科学的に思考し、表現することにおいてもそれほど抵抗がないことがうかがえる。	小学校の既習事項を用いてさらに発展的な内容を学習することになるので、小学校の内容を思い出しながら中学校の学習内容を進めていくような授業を展開していくことが重要である。また、記述問題は無回答の割合が少なく誤答の割合が多いことから、実験をやっただけで終わりにせず、実験結果を考察する時間を十分にとり、記述に苦手意識が出ないような工夫をしていきたい。
生命・地球	市全体の平均と比べ0．7ポイント上回っている。大地のつくりと変化についての出題だったが、知識を問う設問は正答率が市全体を上回っているものが多い。 一方、地層のでき方や地層の並びについて知識を用いて科学的に思考する設問では平均を下回っているものがある。	小学校の内容からの出題であるが、この領域と関係する内容は中学校1学年の後半に学習する。小学校の既習事項の確認を取り入れた授業を展開することで、生徒が同じスタートラインに立った上で学習できるようにしたい。
植物の生活と種類	市全体の平均を1．7ポイント上回っている。特に実験器具の使い方では平均を10．4ポイント上回っている。また、この領域でも記述問題は平均を6．7ポイント上回っており、無回答率は比較的低い。一方で、知識を活用する設問では、平均を6．1ポイント下回っている項目がある。	この領域は1学年の初めにのみ学習する内容なので、ここで内容を定着させるという意識を生徒も教員も共通しておく必要がある。またそれに加えて、繰り返し復習できる機会を授業の中で設けたり、季節ごとに関連のある植物があれば、その機会に復習の意味もこめて話題にしたりするはたらきかけもしていきたい。
身近な物理現象	市全体の平均を9．0ポイント上回っている。知識・理解に関わる設問、科学的な思考を問われる設問のどれについても平均を上回っているので、定着度調査時には内容が身に付いていることがうかがえる。平均を上回っている要因として、学習時期が定着度調査実施時期に比較的近かったことも考えられる。	この領域は植物の領域などとは異なり、目には見えないものを扱うため、比較的理解しにくい分野である。したがって、実験を通して光による現象を実際に経験し、実体験に基づいた理解が求められる。また、生活に身近なところに光の現象が利用されていることを紹介し、関心を持たせる工夫をしていきたい。
身の回りの物質	市全体の平均とほぼ同じ正答率である。設問ごとに見ていくと、気体の発生と性質の設問については平均を1～6ポイント上回っている。一方で、金属や物質の密度などの身の回りの物質の性質に関する設問では、平均を5～8ポイント下回っている。平均を下回っている設問は、知識を活用する内容の応用的な問題であることも一因であると思われる。	この領域は新しく学習する言葉や、様々な物質の性質など覚えるべき知識が多い。それに加えて、密度の計算も習うため数学的な部分の内容がある。そのため、苦手意識をもってしまう生徒も少なからずいる。しかし実験が多い分野であることから、実体験を通して学ぶことを大切にしていきたい。また、小テストなどを取り入れた知識の定着を図る工夫をしていく必要がある。

宇都宮市立陽東中学校 第１学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	83.0	83.8
	読解問題	75.7	75.7
	文法・表現・英作文	65.9	68.6
観点別	外国語表現の能力	63.6	65.9
	外国語理解の能力	78.8	79.2
	言語や文化についての知識・理解	72.8	74.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	市の平均が83.8%なのに対し本校は83.0%で、その差は0.8ポイントと比較的少なかった。絵を見て答えたり、会話内容を聞いて答える問題において、聞き取る力はおおむね身についているようである。ただし、まとまった英文を聞いてメモを取りながら答える問題においては、市の平均が39.9%なのに対して、本校は34.0%と5.9ポイント下回った。	教師やALTの話す英語を聞いたり、絵を見ながら行うリスニングの問題を解いたりすることには、ほとんどの生徒が抵抗なく取り組めており、語と語のつながりや音の変化に注意しながら、より英語らしい音で発音することに対しても、物怖じしない生徒が多い。今後はまとまった英文を聞き取る機会を多く設けながら、的確にメモをとるような練習を増やしていきたい。
読解問題	市の平均と同様、75.7%であった。問題によっては市の平均を大きく上回っているものがある一方で、つづりの間違い等の軽微なミスによって正答できなかったり、無回答が多い問題もみられた。特に長文を読み取って内容を正確につかむことに課題が見られる。	つづりの間違いを少なくするため、単語テストをこまめに実施し、単語の反復練習の機会を多く設けていきたい。また、問題を解く以前に諦めてしまう生徒が多いので、USE Readなどのページでまとまった英文を読んだり、教科書以外の長文を読む機会を設けながら、長文を解くコツなども示していけるようにしたい。
文法・表現・英作文	市の平均が68.6%なのに対し、本校は65.9%と2.7ポイント低かった。特に単語を並べ替えて英作文をする問題においては、4問全てにおいて市の平均を下回っており、英語の文型をよく理解できていない状況がうかがえる。一方で、相手を誘う表現など、普段身近で日本語としても使っている表現などにおいては、市の平均を上回っていることがわかる。	英語の文型を身に付け、並べ替えがスムーズにできるようにするため、文法事項の解説にもある程度文型を意識した説明をするようにする。また、無回答のものも多いため、授業の中で自己表現をしながら英作文をする機会を多く設け、それを添削することで細かな文法的な間違いに気付かせられるようにしていきたい。